



第35回練馬区障害者通所施設合同運動会を開催 ～1200人で楽しむ！ 笑顔の運動会！～

と き	6月1日（土）午前10時～午後3時30分
と ころ	区立南町小学校（練馬2-7-5）

1日、区立南町小学校で練馬区障害者通所施設合同運動会が開催された。15の通所施設から約400人の利用者とその家族や職員、ボランティアなど総勢約1,200人が参加した。参加する当事者が中心となって開催する運動会で、これほど大規模なものは珍しい。

当日は快晴の下、600人が参加したパン食い競争、大玉送り、綱引きといった競技が行われ、参加者たちはさわやかな汗を流した。

同運動会は、通所施設間の交流、障害のある方の社会参加等を目的に、区内にある民間や区立の通所施設から選出された実行委員が中心となって企画・運営を行い、通所施設に働く利用者がスポーツを楽しみ、自立に備える心と体を養うことに役立っている。

100m走・300m走で快走したやすらぎ夢工房の中澤 優（なかざわ ゆう）さんは、「緊張したが、練習を毎日したことが発揮できたので、うれしい」と話してくれた。



開会の宣誓の様子



100m走の様子

【練馬区障害者通所施設合同運動会の概要】

練馬区障害者通所施設合同運動会は、今年で35回目の実施。区内の民間や区立の15通所施設の利用者とその家族、施設職員たちが集まり、スポーツに親しむ貴重な機会となっており、交流の場にもなっている。毎年、参加者1,200人を越える催しで、通所施設に働く利用者がスポーツを楽しみ、心と体を養うことに大いに役立っている。

この運動会は実行委員会と区との共催事業である。実行委員長である、かたくり福祉作業所の丹保 康人（たんぼ やすひと）さんが各施設から選出される実行委員を率い、企画、運営を行った。

【当日の様子】

午前10時、6月のさわやかな天気の下、約400人に及ぶ通所施設利用者が紅組と白組に分かれて整列し、開会式が行われた。選手を代表して、山彦作業所の秋山 猛（あきやま たけし）さん、嶋田 育生（しまだ いくお）さん、小竹 喬士（こたけ たかし）さんが壇上に立ち、元気よく開会を宣誓した。

午前中は、通所施設利用者をはじめ、保護者や来賓も全員参加するパン食い競争から始まり、25m走や100m走、大玉送りといった競技が行われた。100m走では、山彦作業所の高岡 大貴（たかおか おおき）さんやねりま事業所の平林 満（ひらばやし みつる）さんの激走など、多くの見どころがあった。お昼休みの施設職員が仮装したりレーには、利用者やその家族から多くの歓声があがった。また、施設利用者によるフォークダンスが行なわれ、会場の注目を集めていた。午後からは、綱引き、玉入れといった競技が行われ、午前中に引き続き一進一退の熱戦が繰り広げられた。

実行委員会幹事長として参加した、ねりま第二事業所の薬師寺 博之（やくしじ ひろゆき）さんは、運動会の参加は今年で3回目。「実行委員全員で協力してより良い運動会を目指して頑張り、利用者の皆さんの素敵な笑顔を見られて、とても感動した。」と話してくれた。